児童・生徒の現状・課題

指示されたことについてはやるが、そこから自ら追究していこうとする児童は少ない。また、基本的な知識を獲得するが、その知識を別の課題解決に生かしたり、そこから湧いてくる新たな疑問に気付いたりする児童が少ない。

学び続ける力を育むための重点目標

授業の中で学び方について児童が選択する場面を設定し、児童自身が自己の課題に応じて自己決定できるようにする。

具体的な手だて①

授業や単元の初めには学習の流れや計画を示すことで見通しをもたせ、終わりでは学習したことの振り返りをさせる。

具体的な手だて②

個人では自己の課題に気付けない児童もいるので、協働的に友達と見合って伝え合ったり、ICT機器を活用したりする。

具体的な手だて③

低学年のうちはスモールステップで学び方を「選ぶ」という素地を作り、中学年以上では学年に応じて、積み重ねた知識をもとに「もっと知りたい。」と追究できるような選択肢を組み込んでいく。

児童生徒調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分からすすんで計画を立てて学習している。	86.9	90.0	87.7
②学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	89.0	92.0	90.0

教員調査

肯定的回答の割合（%）	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	93.3	96.0	81.3
②【他者受容・協調性】	83.3	87.0	87.6

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・研究全体会等を定期的に開き、町田市教育プランについて共通理解、検討できるようにする。
・管理職の授業観察では、選択させる場面を必ず取り入れた授業を全教員が行うようにし、指導を仰ぐだけでなく、指導案を配布し教員同士で授業を見合えるようにする。

総括（7月）

研修後の教員アンケートでは、「選択させることのメリットについてよく分かったが、実際に普段授業でどのように取り入れていけばよいのかが不安。」という声がいくつか挙がった。MNE調査の結果からも授業内での選択について、教員は93%が取り入れているという回答をしているのに対し、児童は89%と低くなっている。児童がより自己決定をしながら学習を進められているという意識を高めていく必要がある。現在、本校では来年度市の研究指定校の発表に向けて、体育科においての選択させる授業づくりを研究している。教員全体でどのような選択を授業内に取り入れていけば効果的か研鑽に努めることで、授業改革への意識を高めていく。

総括（1月）

目標には達しなかったが、児童はすすんで計画を立てて学習したり、学び方を選んで学習をしたりという意識が高まっている。一方、教員調査では授業の中で選択をさせているという肯定的な回答の割合が下がってしまった。要因としては、研究全体会を数回行ったが、そこでの意識付けや意識を高めるための研修が不足していることが考えられる。児童に選択させるための教員の選択肢を各教科でどのように設定したのか、実践例を紹介し合ったり、アイディアを出し合ったりする時間を意図的に設定していきたい。